

◎卷末言

卷末言

われに竹馬の友あり。和田菱峰といふ。漢垂れ時代の頃。共に歳を同ふして、村鬢に學びたる腕白黨中の剛の者也。菱が常に先生の目を偷みて、頻りに酔ひつゝありしと記憶す。裸は何時も水滸傳の面白き。其後菱が順風に帆を孕みて、中學、大學と進み行く頃。裸は恰も東奔西走徒ら空想を夢み、未來の巨人を以て任じぬたりき。爾來春風秋雨爰に二十年。菱今や豈美しき學士となり、未だ何等の業をも成し得ざる恐人裸と親むこと骨肉の如し。學士となり、未だ何等の業をも成し得ざる恐人裸の偶々予が本書を世に出すと聽き、菱や昔日の友情を忘れず、裸の相談相手の任を全うすべく、日夜予が法窟に訪ね來りぬ。稿漸く進む頃。菱は年來趣味として養ひ來りし得意の畫筆を甜めつつ、丹精を凝して表紙の意匠を惠み呉れたり。爰に本書と菱と裸との關係を略述し、一は謹んで菱峰君に感謝の意を表し、一は友達の誰彼に告げむと欲して。

四十四年初冬

裸石識

ルーラン 大尾

ルーラン

定價金五十錢
郵税金四錢

明治四十五年一月二十日印刷
明治四十五年一月廿三日發行

著者 河合 裸石

發行者 北海道小樽區相生町二番地
川南 重祐

印刷者 東京市神田區美土代町二丁目一番地
島 述太郎

印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地
三 秀 舍



發兌元

近江堂

電話 六六五番
振替貯金口座東京一七五九四番

269
84

發 賣 書 肆

北海道函館區地藏町六十一番地

小島大盛堂

北海道札幌區南一條西二丁目

富貴堂

北海道旭川町二條通八丁目

齋藤弘文堂

北海道石狩國厚田郡厚田町

上鱗商勇屋

023293-000-8

特20-488

ルーラン

河合 裸石ノ著

M45

ADC-0167



